

学術団体名：日本法中毒学会  
学術刊行物の名称：Forensic Toxicology  
事業期間：平成27年度～平成31年度

## 1 取組の概要

### ・ 取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本取組は、日本法中毒学会機関誌「Forensic Toxicology」（以下 FT と略す）を通して、我が国の法中毒学の優れた研究成果を世界に発信すると同時に、海外の優れた研究者にも FT に投稿してもらい、国内外共同で、日本から世界に向けて活発に情報発信することを目的とする。今回の取組の特徴として、オープンアクセス方式を部分的に導入し、更に一層国際情報発信の機能を強化し、ようやくたどり着いたトップジャーナルとしての立場を安定的に維持しようとするものである。

### ・ 応募時に設定した取組の目標・評価指標

- (1) 外国人レフェリー数の総レフェリー数に占める割合の改善
- (2) 外国人編集員数の総編集員数に占める割合の改善
- (3) 論文投稿数：現在年間約 120 編、目標 3 年目までに年間約 150 編、事業完了時までに年間約 180 編を目指す。
- (4) 論文被引用件数：2013 年 393 件、2014 年 510 件、目標 3 年目 600 件、事業完了時までに 800 件。
- (5) インパクトファクター：現在 5.756（2013 年、2014 年 7 月発表）、目標、これから 5 年間 4.0～6.0 を維持する。
- (6) 掲載論文 PDF ダウンロード数：2013 年 18,629 件、2014 年 18,806 件である。3 年目は、年間 25,000 件、事業完了時までに年間 30,000 件を目標としている。

## 2 目標の達成状況

### ・ 現在までの目標の達成状況

- (1) 外国人レフェリー数の総レフェリー数に占める割合は 13.3 から 34.8 % に増加した。
- (2) 外国人編集員割合は、33.4 から 23.8 % に減少。但し、外国人の実数は 4 から 5 人に増加した。
- (3) 論文投稿数は現在 100～110 編で、とくに日本からの投稿減少が目立つ。この点は、今後改善の余地がある。
- (4) 論文被引用件数は、3 年目の現在、（2017 年 10 月上旬）既に 557 件で年末までに目標を達成できるものと考えられる。
- (5) インパクトファクターは申請時 5.756 と突出して高かったが、現在（2016 年、2017 年 6 月発表）は 3.744 と低下したものの、日本から発信されている約 100 の国際雑誌の中で 7 位であり、依然高位置にある。
- (6) 掲載論文 PDF ダウンロード数は 2016 年に、既に 40,926 件と最終目標を超えている。

### ・ 今後の計画

FT 誌は本科研費助成のもとで着実に充実・向上している。最近では、本助成によらない自前のオープンアクセス論文が少なからず登場し、さらに、年間 4～5 編の総説が投稿されるようになった。これは、今までに経験しなかった現象であり、一部オープンアクセス化の効果と考えられる。現在の状況を鑑みると、計画調書に記載した実施計画を着実に実行していれば、必ず目標を達成できる状況にあり、さらに上記の点に関し、数値及び質の向上に向けて努力する。

